



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 20 R7. 01. 15



学校 HP

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

“Impossible”から“ I’m possible”へ－自分を信じて飛躍の年に－

不可能を可能にする。50本塁打、50盗塁を軽々と飛び超えて見せた大谷翔平選手。冬休みは大谷選手を検証する番組がいくつかありました。「前人未踏」「異次元」。まさに前例のない活躍に私たちも彼に送る賛辞を思いつかないほどです。

大谷選手が高校生の頃に作った曼荼羅チャート（右図参照）は有名です。きっと皆さんの中にもこれをお手本にして自分なりのチャートを作成した人もいるのではないでしょうか。

その大谷選手も2018年に渡米した春のオープン戦では投手として0勝1敗、防御率27.00、本塁打0。地元の記者からは「打撃に関しては高校生レベル」と酷評されました。20年のシーズンも打率.190、本塁打は7本。投手としては0勝1敗、防御率37.80。

それでも大谷選手は自分を信じ、二刀流の可能性を感じました。逆境であっても決してあきらめない。自分を信じる強さがあったのだと思います。

これまでの報道では、あの鍛え上げた肉体を裏打ちするような、彼が苦痛に顔をゆがめ、額に汗するハードな練習シーンを見た記憶がありません。むしろ多くの報道は彼の野球に対する考え方（お酒は飲まない、チームメートとコミュニケーションを取る、課題解決に向かって研究する等）が伺える内容だと感じました。つまり実践を支える思考や態度こそが大谷選手を造っているのだということだと思います。

“Impossible”も見方を変えると“ I’m possible”（和製英語ですね、ご勘弁！）。誰もが乗り越えなければならない壁にぶつかります。逃げ出したい、できれば避けて通りたい。そんな気持ちになるものです。プレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、真摯に向き合い、前へ進む強さこそ自分の生き方をつくる原動力になるのだと感じます。自分をとことん信じてこの一年を希望溢れる一年にしたいものです。

武雄市活性化を考える　－JR九州の駅長さんの依頼に応える－

1年生の溝上奈夏さん、横田茉里さん、山崎璃子さん、橋富永佳さんの4人はJR武雄温泉駅の村子駅長の呼びかけに応じて武雄市の活性化のために高校生の視点で活動を開いています。



これまで活性化会議に参加したり、実際にイベント（12月14日武雄温泉駅前マルシェ）で小物制作のワークショップを開催し、会場の賑わいに一役買ったりしてきました。

「売り上げ状況や来客数など現実的な数字が飛び交う中、大人たちの中で意見を言うのはとても緊張しました」と言いながら、2回目の会議では「駅にイベ

セクション	セクション内	セクション外	セクション内	セクション外	セクション内	セクション外	セクション内	セクション外
セクション A	セクション A 内	セクション A 外	セクション B	セクション B 内	セクション C	セクション C 内	セクション D	セクション D 内
セクション A	セクション A 内	セクション A 外	セクション B	セクション B 内	セクション C	セクション C 内	セクション D	セクション D 内
セクション A	セクション A 内	セクション A 外	セクション B	セクション B 内	セクション C	セクション C 内	セクション D	セクション D 内
セクション A	セクション A 内	セクション A 外	セクション B	セクション B 内	セクション C	セクション C 内	セクション D	セクション D 内

ントカレンダーを作っては？」といった具体的な提案を出せました。

「いろいろな立場の社会人と交流できて刺激になる」「これからはもっといい意見が言えるように自分の引き出しをたくさん作る！」と今後の活動に更なる意欲を沸かせています。

シリーズ「武雄高校生へのメッセージ」VOL. 1

「自分を大切に、主体的に生きる」

学校運営協議会 会長 岡本忠裕（高峰寺住職・あさひこども園園長・本校OB）

新たな一年が始まり、皆さんがあなたの学校生活を送っていることを心から嬉しく思います。今日は、「主体性を持つこと」の重要性についてお話ししたいと思います。



私たちが日々の生活の中で直面するのは、無数の選択です。その選択をするとき、時に他人の期待や周囲の「空気」に流されてしまうことがあるかもしれません。しかし「空気を読む必要はありません」。他者の反応や周囲の無言の圧力に惑わされることなく、自分の思いや考えを大切にし、それをしっかりと表現することが何よりも大切です。

言葉で気持ちを伝えることを蔑ろにしてしまうと、最も大切な自分自身を見失ってしまいます。自らの本音を隠していると、次第に心は重くなり、自由を感じることができなくなるからです。「幸せとは本音を言えること」。言葉にする重みは増えますが、心は軽くなり、自分らしい生き方ができるようになります。

赤ちゃんの成長過程を思い出してみてください。赤ちゃんは、未知の世界を理解するために、手に触れるものを口に入れ、必死にハイハイし、感情を伝えるために大声で泣きます。この行動こそが「生きる力」であり、赤ちゃんが持っている主体性の表れです。「生まれながらに主体性を持たない人はいません」。私たちも最初からその力を持って生まれてきているのです。

もちろん、社会生活を送る中で、他者との調和を意識することは重要ですが、思いを犠牲にしてまで他人に合わせる必要はありません。意見をしっかりと持ち、それを恐れずに表現することが、自分らしく生きるための力となります。失敗を恐れることなく挑戦し続けることが成長に繋がります。失敗を経験し、その中から学ぶことでこそ、自己成長を実感できるのです。

自らの意志を大切にし、他人の目を気にせず、主体的に生きることです。自分の本音を尊重し、迷わず前に進んでいくことで、皆さんの未来は必ず開けます。御自身の人生を歩む力を信じてください。私達も皆さんを信じて支え続けます。

※当面の予定は紙面の都合上、
割愛します。あしからず。

桃李塾は中高生を対象にした歴史、伝統、文学、科学等の勉強会です。3月までにあと3回佐賀市のアバンセで開催されます。興味がある人は下村まで！



(閑人閑話)不確実性という霧に包まれた
2025が始まった。これまでも「混迷の時代」と
か「先行き不透明」とかよく言われてきたもの
だが、それでもかつての言葉にはまだ先の予測
がおぼろげながら見えていたような気がする。
▼年末、山口県萩市を訪れた。吉田松陰の松下
村塾を見るためだ。松陰の志を継承する桃李
塾で塾長の川口雅昭氏との出会いたことがきっかけ。
70を超す齢とは思えないその気迫に圧
倒された。▼安政の大獄に連座した松陰は29
歳で生涯を閉じた。彼の生きた時代もまた歐
米列強を前にした混迷の時代だった。▼21歳
で長崎平戸へ、翌年江戸へ遊学。23歳の時ペリ
ー艦隊来航に危機感を覚え志士的活動を開始。
やはり20歳前後の数年間はその人の生き
方の原型を造る。▼「君子の道に志すや、すな
わち学び、則ち思ふ。昼夜之を学び、昼夜之を
思ふ。思えば得るあり、学べば為すあり」とは松
陰の言葉。心ある立派な人が道に志を立てた
際には学問に励み、またそれをわが身に当てて
考えるものである。昼間学問に励み夜分その
日に学んだことを考える。考えれば得るものがあ
り学べば行うべきことがある、という意味。▼
戦後80年。平和な歳月を重ねてたどり着いた
貴重な節目の年だ。しかし世界の混迷は深い。
先行きを案じるだけでは未來は開けない。危機
感は変革の生みの親となる。混迷に臆すること
なく新しい取組に全力を尽くそう。(弓口)